

・平成22年度フォローアップ結果のポイント

計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9月)

1. 概況

基本計画掲載事業56事業のうち、4事業が完了、46事業が実施中、6事業が未着手である。
 公共事業においては、地区の文化拠点となる「文化・交流拠点地区」が、平成24年夏のオープンを目指して平成22年8月より着手し、現在、ホールや図書館の建築工事を進めている。また、居住環境の向上に資する基盤整備として、地区のシンボルロードである「黒崎駅前線(ふれあい通り)」や「黒崎駅ペDESTリアンデッキ」、「黒崎中央公園・蛸原公園」についても、「文化・交流拠点地区」との同時オープンに向けて整備を着実に進めている。
 民間事業においては、「黒崎二丁目地区市街地再開発事業」が立上がり、事業の具体化へ向けて準備組合活動が進められ、商店街への回遊機能を備えた新たなまちの賑わいの核となることが期待されているほか、平成22年3月と平成23年3月に完成した中心市街地の共同住宅は良好な入居状態である。
 また、平成22年度は、「黒崎賑わいづくり発信プロジェクト推進事業」として地元商業者等による「黒崎バザール」の実施、商店街内の空き店舗を活用して平成21年度にオープンした「スイーツの駅96Cafe」や「イベントスペース KUROSAKI」等における様々な催しの実施などを通して、商店街の賑わいと交流の拠点づくり等、商業活性化に向けた取組みを進めている。
 さらに、昨今の厳しい経済状況から「コムシティの再生」に時間を要していたが、平成23年2月に民間所有の商業床等を市が取得し、再生に取組む方針を決定して、現在、売買交渉を行っている。また、学識経験者、地元団体、市民代表からなる「コムシティ再生のあり方検討委員会」を設置し、取得後の活用策の検討に着手したところである。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
・来街者で賑わうまち (集客と回遊性の強化)	・中心市街地における歩行者通行量	20,164人/日 (H19年)	27,000人/日 (H24年度)	19,228人/日 (H22年度)		
・住みたい・住み続けたいまち (定住人口の増進)	・中心市街地内の居住人口	5,689人 (H19年)	6,300人 (H24年度)	6,117人 (H22年度)		
・経済活力のあるまち (商業の活性化)	・中心市街地の小売業年間商品販売額	43,500百万円 (H19年度推計値) 40,407百万円 (H19年度実測値)	48,700百万円 (H24年度)	36,211百万円 (H21年度) 推計値	-	
	・中心商店街ゾーンの空き店舗率	21% (H19年)	16% (H24年度)	18.1% (H22年度)		

注) 取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

「中心市街地内の居住人口」と「中心商店街ゾーンの空き店舗率」については、新たな民間共同住宅への入居開始や空き店舗を活用した各種支援により開業店舗が増加する等、概ね予定通りに取組みが進められており、事業効果が最新値に表れている。今後も着実に事業に取り組むことで目標達成は可能である。

「中心市街地における歩行者通行量」と「中心市街地の小売業年間商品販売額」については昨今の厳しい経済状況から、最新値は基準値に対して増加に至っていない。

目標達成に向けた取組みとしては、民間事業として再生に時間を要していたコムシティについて、民間所有の商業床等を市が早期に取得して再生に取り組む方針を決定し、現在、取得後の活用策の検討を始めたところである。

また、中心市街地活性化協議会に配置しているまちづくりの専門家が、地元関係者とともに、商店街への回遊機能を備えたまちの新たな賑わいの核づくりを目指して事業推進を図り、平成22年11月に市街地再開発準備組合が設立され、現在、「黒崎二丁目地区市街地再開発事業」として積極的に活動が進められている。

その他、文化・交流拠点地区では、歩行者通行量と販売額に結びつくよう、更なる回遊強化と定住人口の増進に向けて、図書館とホール等の公共事業に加え、民間事業として生活利便施設や集合住宅等の整備計画が進められ、商店街では、新たな来街者の獲得に向けて学生と協働で行う「情報発信事業」や、多様な層へ商店街の魅力をアピールし、リピーター客を獲得する「(仮称)黒崎商店街満喫ツアー運営事業」を新たな取組みとして追加するとともに、平成22年度中には、「黒崎地区商業ベンチャー育成事業」によって、商店街内に新たに5店舗が開業するなど、今後の効果発現も見込まれる。

更には、中心市街地活性化協議会が中心となって、地元や民間事業者等の関係者と連携しながら、基本計画への新たな事業追加や見直しを積極的に行っており、計画期間内での目標達成は可能である。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

見通しは変わっていない。

5. 今後の対策

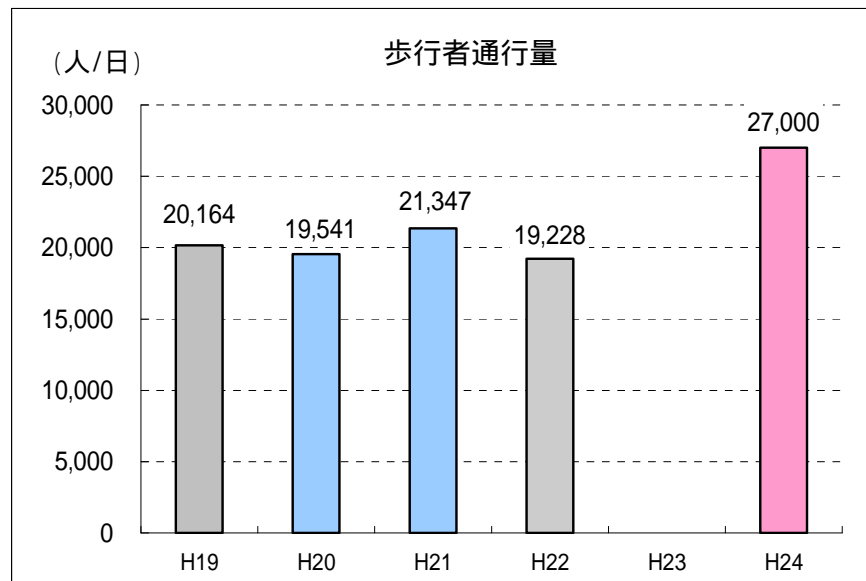
定住人口の増進等の着実な効果が歩行者通行量の増加等に繋がるよう、中心市街地活性化協議会を中心として、多様な関係主体との連携のもとに創意工夫しながら、目標達成に向けた各種取組みを積極的に推進していく。

また、基本計画掲載事業を適宜見直しながら、認定と連携した支援措置等の更なる活用や目標達成に資する事業の追加等を積極的に行っていく。

・目標毎のフォローアップ結果「来街者で賑わうまち（集客と回遊性の強化）」

「中心市街地における歩行者通行量」 目標設定の考え方基本計画 P64～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	人/日
H19	20,164 (基準年値)
H20	19,541
H21	21,347
H22	19,228
H23	
H24	
H24	27,000 (目標値)

調査方法；実測数の3日間平均

調査月；10月中旬

調査主体；北九州市

調査対象；商業集積エリア内の10ヶ所における歩行者通行量（9時～19時）

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・子どもの館リニューアル事業（北九州市）

事業完了時期	【済】平成21年4月
事業概要	本事業は、開館6年を迎えた「子どもの館」のより一層の子育て機能施設の強化を図るために、一部施設のリニューアルを行う事業である。
事業効果又は進捗状況	平成21年4月にリニューアルオープンし、事業効果として、年間来場者がリニューアル前に比べて約28.9万人(平成23年3月末時点)増加しており、歩行者通行量の増にも寄与している。

・黒崎副都心賑わいづくり推進事業（実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成17年度～
事業概要	地元まちづくり団体や商店街、大型店等が主体となって実施するイベントや魅力づくり等の賑わいづくり活動に対して支援する事業である。
事業効果又は進捗状況	<p>地元の商店街、自治会、まちづくり団体が構成された「黒崎宿にぎわいづくりの会」を主体として、年5回のイベントを開催している。</p> <p>平成21年度のイベント集客数は11.1万人であった。平成22年度も引き続きイベントを開催し、集客数は約9.3万人であり、歩行者通行量の増に寄与している。</p>

・文化・交流拠点地区（図書館・ホール）、（広場・緑地等）の整備（北九州市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	本事業は、旧九州厚生年金病院跡地等を活用して、文化・交流機能の集積整備を図るとともに、市民が憩い、集える広場・緑地等を整備するものである。
事業効果又は進捗状況	平成24年夏の完成を目指し、平成22年8月より工事を進めている。

・黒崎地区賑わい交流機能の整備（北九州商工会議所）

事業完了時期	【済・実施中】平成21年度～
事業概要	本事業は、商店街内の空き店舗を活用して、チャレンジショップ、休憩所、トイレ、カフェ、案内所、商業者サポート、会議室、事務所等の機能を複合的に整備・運営するものである。
事業効果又は進捗状況	<p>スイーツに特化したチャレンジショップやトイレや休憩スペース、授乳室などの便利施設を備えた「賑わい交流拠点」を平成21年11月にオープンした。これにより、女性客やファミリー客など、これまであまり商店街で見られなかった顧客層の来街増加につながっており、商店街の回遊の拠点となっている。</p> <p>また、チャレンジショップ出店者に対しては、売上げ増加に向けて専門家による技術指導・経営指導等を実施し、商店街内の空き店舗で本格的に開業できるように支援している。</p>

・【追加】イベントスペース運営事業（黒崎連合商店街振興組合、北九州市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	本事業は、商店街内の空き店舗を活用して、全国各地の物産展の開催や多様な地域イベントを実施するスペースを運営するものである。
事業効果又は進捗状況	イベントスペースを平成21年11月にオープンし、全国各地の物産展や地域活性化イベントを継続開催しており、商店街の賑わいづくりにも寄与している。

・情報発信事業（黒崎商店組合連合会）

事業完了時期	【実施中】平成18年度～
事業概要	本事業は、情報誌、WEBなどを活用し、ショップやイベント等のきめ細かく、タイムリーな情報を広く発信するものである。
事業効果又は進捗状況	<p>平成22年度は、「学生が選ぶ黒崎商店街100選」を実施した。</p> <p>本事業は、地元大学生が黒崎商店街の各店舗を調査して逸品を掘り起こし、ホームページ及びパンフレット等で広くPRするものである。</p> <p>この事業により、個店の来店客の増加や商品販売額の増加を図ることができ、商店街全体の歩行者通行量増や商品販売額増も期待できる。</p>

・【追加】(仮称)黒崎商店街満喫ツアー運営事業(黒崎連合商店街振興組合、北九州市)

事業完了時期	【未】平成23年度～
事業概要	黒崎商店街内の既存ストック(個店、人材、歴史や文化)を活用し、来街者に黒崎商店街の魅力を再発見してもらうツアー的なイベントを定期的に行うことで、新たな来街者・来街動機を発掘し、多様な層の来街者をリピーター客として獲得するものである。
事業効果又は進捗状況	平成23年度からの実施に向けて、黒崎商店街内の既存ストック(個店、人材、歴史や文化)を活用した、商店街の魅力を満喫できるツアーを企画。 この事業により、新たな来街者、多様な層の来街者をリピーター客として獲得できる。また、「イベントスペース運営事業」とも連携し、相乗効果を発揮させていくことで、歩行者通行量の増加や商品販売額の増加が期待できる。

・【追加】黒崎二丁目地区市街地再開発事業(黒崎二丁目地区市街地再開発組合(予定))

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	本事業は、中央商店街付近で地区内のメインストリート沿いに民間再開発ビルを整備し、まちの新たな賑わい空間を創出するとともに、商店街への集客と回遊性を強化するものである。
事業効果又は進捗状況	平成22年11月に市街地再開発準備組合が設立され、早期に再開発事業に着手するため、事業計画策定に向けた活動が積極的に進められている。

・コムシティの再生(北九州市)

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	本事業は、閉鎖した商業施設部分に、店舗やサービス施設等の集客機能に加え、地域交流や市民の福祉・文化の向上に資する公益機能の導入を図ることで、再開発ビルの再生を行うものである。
事業効果又は進捗状況	昨今の厳しい経済状況から、民間での再生が遅れていたが、平成23年2月に、民間所有の商業床等を市が取得し、再生に取組む方針を決定したところであり、議会の承認を得て、出来るだけ早期の取得を目指すこととしている。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者通行量については、集客力を強化する「子どもの館のリニューアル」やコミュニティサイクルやシニアカー運営等のモデル事業を通して継続的な回遊性向上の取組みを検討する「新たな魅力づくり推進事業」などの各種取組みを進めているものの、昨今の厳しい経済状況や数値への影響が大きいコムシティの再生が遅れており、最新値は基準値に対して増加に至っていない。

目標達成に向けた取組みとしては、民間事業として再生に時間を要していたコムシティについて、民間所有の商業床等を市が取得して再生に取組む方針を決定し、現在、取得後の活用策の検討を始めたところである。

また、商店街の更なる集客力強化へ向けて、商店街への回遊機能を備えたまちの新たな賑わ

いの核となる黒崎二丁目地区市街地再開発事業や、新たな来街者の獲得に向けて学生と協働で「情報発信事業」に取り組むとともに、多様な層へ商店街の魅力をアピールしリピーター客を獲得する「(仮称)黒崎商店街満喫ツアー運営事業」を新たな取り組みとして追加したところである。

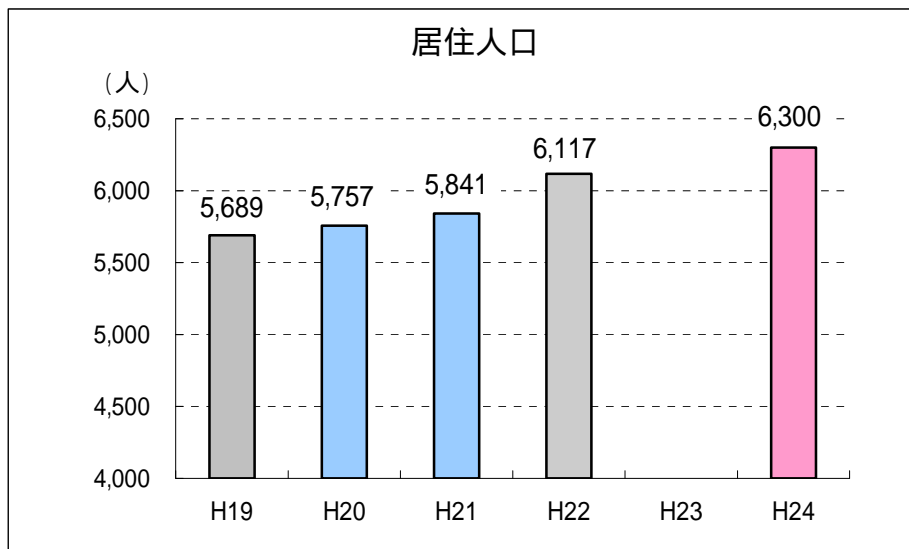
更には、「黒崎地区商業ベンチャー育成事業」により、商店街内に新たに5店舗が開業しており、歩行者通行量の増加が見込まれる。

今後も引続き、目標達成に向けて、基本計画への新たな事業の追加や見直しを積極的に進めることで、数値目標の達成は可能である。

・目標毎のフォローアップ結果「住みたい・住み続けたいまち（定住人口の増進）」

「中心市街地の居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H19	5,689 (基準年値)
H20	5,757
H21	5,841
H22	6,117
H23	
H24	
H24	6,300 (目標値)

調査方法；住民基本台帳の町別集計

調査月；9月下旬

調査主体；北九州市

調査対象；基本計画区域内

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・中心市街地における共同住宅供給の促進（北九州市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度
事業概要	本事業は、中心市街地への質の高い住宅供給を促進するためのものであり、認定を受けた中心市街地活性化基本計画の区域内で行われる良質な住宅系プロジェクトに対し、各種支援策の活用を図り、民間事業を推進するものである。
事業効果又は進捗状況	第1号認定の共同住宅が平成22年3月より、第2号認定住宅の共同住宅が平成23年3月に入居を開始している。今後も引き続き支援を実施していく。

・まちのルールづくり（黒崎商店組合連合会）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	本事業は、黒崎の商店街について、業種・業態や建築物・広告物などのハード面のルールや、清掃の徹底、呼び込みの規制等による環境保全に関するソフト面の協定など、まちのルールづくりを行うものである。
事業効果又は進捗状況	黒崎商店組合連合会が、自治会や警察等の幅広い関係者と共に平成21年12月に「まちのルール」を策定し、現在、推進・啓蒙活動を進めており、都心居住の魅力向上に寄与している。

・【追加】黒崎中央公園・蛸原公園整備事業（北九州市）

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	本事業は、社会情勢の変化により利用者が少なくなった公園を、商業者や地域住民等と合意形成を図りながら、活性化に向けたまちづくり役に役立つ公園となるよう再整備を行うものである。
事業効果又は進捗状況	商業者や地域住民とともに、都心居住の魅力向上に寄与する公園再整備についてワークショップを実施し、蛸原公園は平成23年3月より工事に着手し、黒崎中央公園は平成23年夏に工事着手の予定である。

・子どもの館リニューアル事業（北九州市）【再掲P. 3参照】

・文化・交流拠点地区（図書館・ホール）、（広場・緑地等）の整備（北九州市）

【再掲P. 4参照】

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

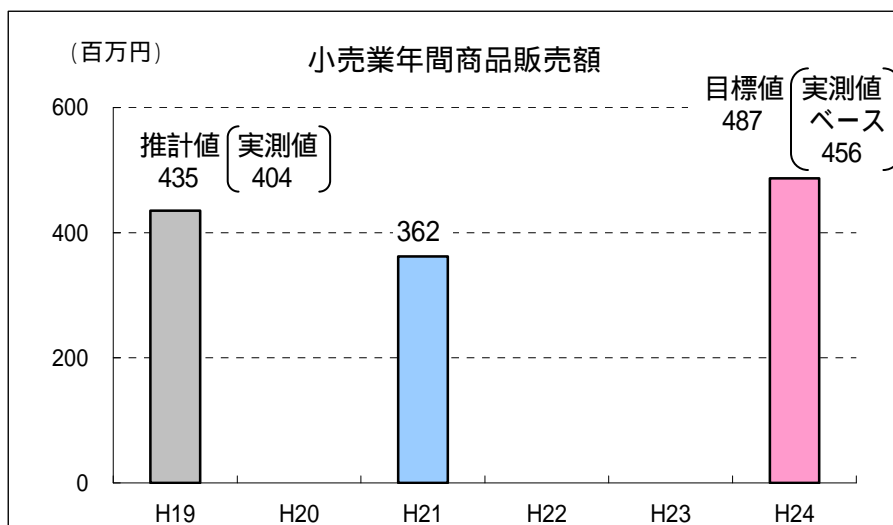
居住人口については、良好な共同住宅の供給促進や居住環境の向上に資する基盤整備等の各種取組みが概ね予定通りに進捗し、概ね当初計画通りに事業効果が表れており、目標達成は可能である。

今後も引き続き、目標達成に向けて、居住環境の向上に資する基本計画に位置付けたハード・ソフト事業を着実に推進していく。

・目標毎のフォローアップ結果「経済活力のあるまち（商業の活性化）」

「中心市街地の小売業年間商品販売額」 目標設定の考え方基本計画 P78～P84 参照

1. 調査結果の推移



年	億円
H19	435 (基準年推計値) 404 (基準年実測値)
H20	未調査
H21	362 (推計値)
H22	
H23	
H24	487 (目標値) 456 (実測値を基にした目標値)

調査方法；商業統計調査、大型店決算報告書等による独自推計

調査月；9月

調査主体；北九州市

調査対象；基本計画区域内

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・空き店舗賃借料補助制度の拡充（北九州市）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	本事業は、商店街の空き店舗を活用しようとする意欲ある者に対して賃借料及び改装費の一部を補助する制度である。
事業効果又は進捗状況	平成20年4月より、補助率や限度額等の新規開業者に対する支援内容の向上を図り、中心商店街での新規開業を推進している。

・黒崎地区商業ベンチャー育成事業（北九州商工会議所）

事業完了時期	【実施中】平成18年度～
事業概要	本事業は、商業における優れたビジネスプランを有する起業希望者に対し、黒崎駅前商店街の空き店舗を低額の賃料で斡旋し、起業を支援するものである。
事業効果又は進捗状況	平成22年度中に、新たに計5店舗の起業者に対して支援を実施し、空き店舗の減少につなげている。

・黒崎地区賑わい交流機能の整備（北九州商工会議所）【再掲P. 4参照】

・【追加】イベントスペース運営事業（黒崎連合商店街振興組合、北九州市）

【再掲P. 4参照】

・情報発信事業（黒崎商店組合連合会）【再掲P. 4参照】

・【追加】（仮称）黒崎商店街満喫ツアー運営事業（黒崎連合商店街振興組合、北九州市）

【再掲P. 5参照】

・【追加】黒崎二丁目地区市街地再開発事業（黒崎二丁目地区市街地再開発組合）

【再掲P. 5 参照】

・コムシティの再生（北九州市）【再掲P. 5 参照】

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

小売業年間商品販売額については、商店街と大型店が連携した「共通商品券事業」や商店街の空き店舗対策等の各種取組みを進めているものの、全国的に厳しい経済状況や数値への影響が大きいコムシティの再生が遅れており、最新値は基準値に対して増加に至っていない。

目標達成に向けた取組みとしては、民間事業として再生に時間を要していたコムシティについて、民間所有の商業床等を市が取得して再生に取組む方針を決定したところであり、現在、取得後の活用策の検討を始めたところである。

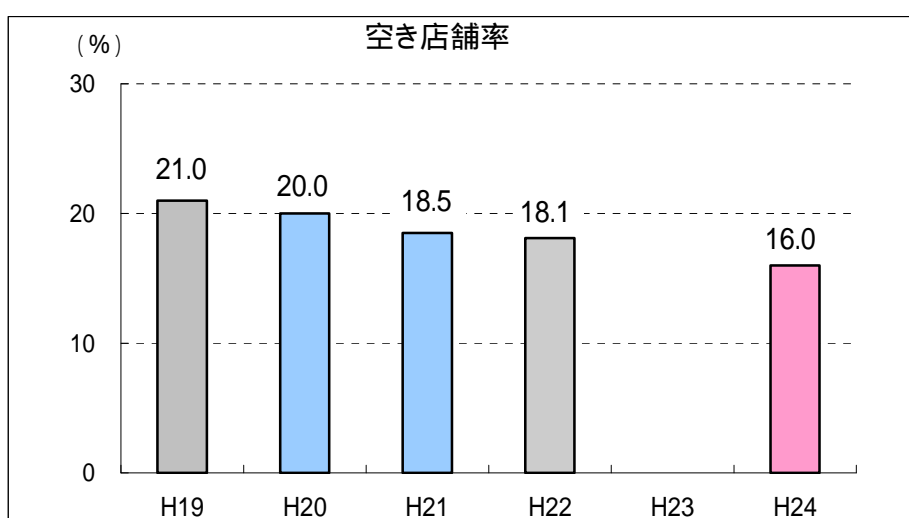
また、新たな取組みとして、商店街への回遊機能を備えたまちの新たな賑わいの核づくりを目指す黒崎二丁目地区市街地再開発事業や、文化・交流拠点地区の民間事業として生活利便施設や集合住宅の整備が進められている。

更には、新たな来街者の獲得に向けて学生と協働した「情報発信事業」に取組むとともに、多様な層へ商店街の魅力をアピールしリピーター客を獲得するため、「(仮称)黒崎商店街満喫ツアー運営事業」を新たな取組みとして検討しているところである。

今後も引き続き、目標達成に向けて、基本計画への新たな事業の追加や見直しを行うことで、数値目標の達成は可能である。

「中心商店街の空き店舗率」 目標設定の考え方基本計画 P85～P89 参照

1. 調査結果の推移



年	%
H19	21.0 (基準年値)
H20	20.0
H21	18.5
H22	18.1
H23	
H24	
H24	16.0 (目標値)

調査方法；実地調査

調査月；毎年9月

調査主体；北九州市

調査対象；中心商店街ゾーン

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ・ 空き店舗賃借料補助制度の拡充（北九州市）【再掲P. 9 参照】
- ・ 黒崎地区商業ベンチャー育成事業（北九州商工会議所）【再掲P. 9 参照】
- ・ 黒崎地区賑わい交流機能の整備（北九州商工会議所）【再掲P. 4 参照】
- ・ 【追加】 イベントスペース運営事業（黒崎連合商店街振興組合、北九州市）
【再掲P. 4 参照】

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗率については、「黒崎地区商業ベンチャー育成事業」により(平成22年度中に)商店街内に新たに5店舗が開業する等、空き店舗の解消に向けた各種取組みが概ね予定通り進んでおり、目標達成は可能である。

今後も、目標達成に向けて、空き店舗の活用支援や既存店舗に対する経営サポート等の取組みを着実に推進していく。